

食品中に含まれる放射性物質に関する リスクコミュニケーションについて



平成30年7月
内閣府食品安全委員会事務局

1. 具体的な取り組み状況

○地方公共団体との共催により学校教育関係者(栄養教諭等)を対象にした意見交換会を開催

- ・食品のリスクは「ハザードの毒性×摂取量」であること、放射性物質等、基準値を下回り、量が少ない場合は心配する必要がないことを説明
大阪府、岡崎市、東京都、広島市、熊本県、兵庫県、岡山県(合計209人)



○一般消費者を対象とした「みんなのための食品安全勉強会」

- ・当日のメインテーマ(カフェイン)の前に、食品のリスクの考え方について説明
東京2回、札幌、大阪(合計179名)



●関係府省と連携した親子参加型イベント・セミナー等の開催

- ・平成29年度は全国3会場(東京都、宮城県、大阪府)親子参加がイベントに出展
「知ろう! 考えよう! 親子で学ぶ、食品中の放射性物質」

その中で小学生とその保護者に対し、食品中の放射性物質に関するセミナー等を実施

(平成28年度、ブース等来場者:約5,400人、放射能セミナー参加者:約600人)

(平成29年度、ブース等来場者:約2,000人、放射能セミナー参加者:約300人)

●関係府省と連携して平成29年度に実施した意見交換会

「今、改めて考える 食品中の放射性物質に対する現状と取組」

- ・10月27日 東京(89人) ・11月1日 仙台(54人) ・11月7日 名古屋(46人) 11月21日 福岡(32人)

2. 今後の取組について

○引き続き1. の取組を継続するとともに、食中毒、健康食品等をテーマに、自治体や関係団体が要請する随時の講師派遣の際にも食品の安全の確保の基本的な考え方(放射性物質等、基準値を下回る場合は心配する必要がないこと)を必ず説明

○Facebook等、ネット媒体を利用して、放射性物質に関する正しい知識を発信